

桜 島

○火山活動度レベル

期間中の火山活動度レベルは 2（比較的静穏な噴火活動）でした。

概 況

10 日と 18 日に爆発的噴火（以下、爆発と略す）が発生しました。また、6 日には南岳直下を震源とする地震が発生し、島内で有感となりました。爆発は本年 7 月 2 日以来約 4 ヶ月ぶりでした。

噴火活動の状況

桜島南岳の噴火は 10 日と 18 日に発生し、いずれも爆発でした。噴火は 8 月 14 日、爆発は 7 月 2 日以来です。10 日の爆発では爆発音、噴石はなく、体感空振は強風のため不明でした。18 日の爆発では爆発音、体感空振ともなく、噴石は雲のため不明でした。

噴煙活動の状況

噴煙の高度は 10 日の爆発による灰白色・中量・火口縁上 800m が最高でした。

2 回の爆発以外にも時折、火山灰を含んだ灰白色・少量の噴煙が火口縁上 200～400m まで上がるのが観測されました。

地震・微動活動の状況

震動観測点 B 点（南岳火口の北西約 2.3km）での火山性地震の月回数は、161 回（10 月：174 回）でした。このうち B 型地震は 123 回（10 月：155 回）でした（図 1 の ）。震源が求まった A 型地震は 34 回で、南岳火口周辺の深さ 2～5 km に分布しました（図 3）。また、6 日 19 時 26 分に南岳直下を震源とする地震が発生し、島内で有感となりました。

火山性微動は 12 回（10 月：2 回）発生しました。微動出現時間の月合計は、0.2 時間（10 月：0.1 時間未満）でした（図 1 の ）。

降灰の状況

鹿児島地方气象台（南岳の西南西約 11km）の観測では、10 月に続き降灰はありませんでした（図 2 の ）。

地殻変動の状況

GPS による地殻変動観測では、黒神 - 野尻と黒神 - 藤野の基線長は、長期的に見るとわずかな伸びの傾向が見られますが、藤野 - 野尻の基線長には変化がありません。これは桜島が 3 年余りの間に東西方向にわずかに膨張していることを示しています（図 4）。

火口の状況

22日に海上自衛隊鹿屋航空基地救難飛行隊の協力を得て上空からの観測を実施しました。A火口からは依然として極少量の白色噴煙が上がっていましたが、B火口の火口底は東側火口内壁が崩落し埋まっていた（写真1、2）。



写真1．桜島南岳南東側から撮影（左：2004年11月22日、右2004年9月3日）

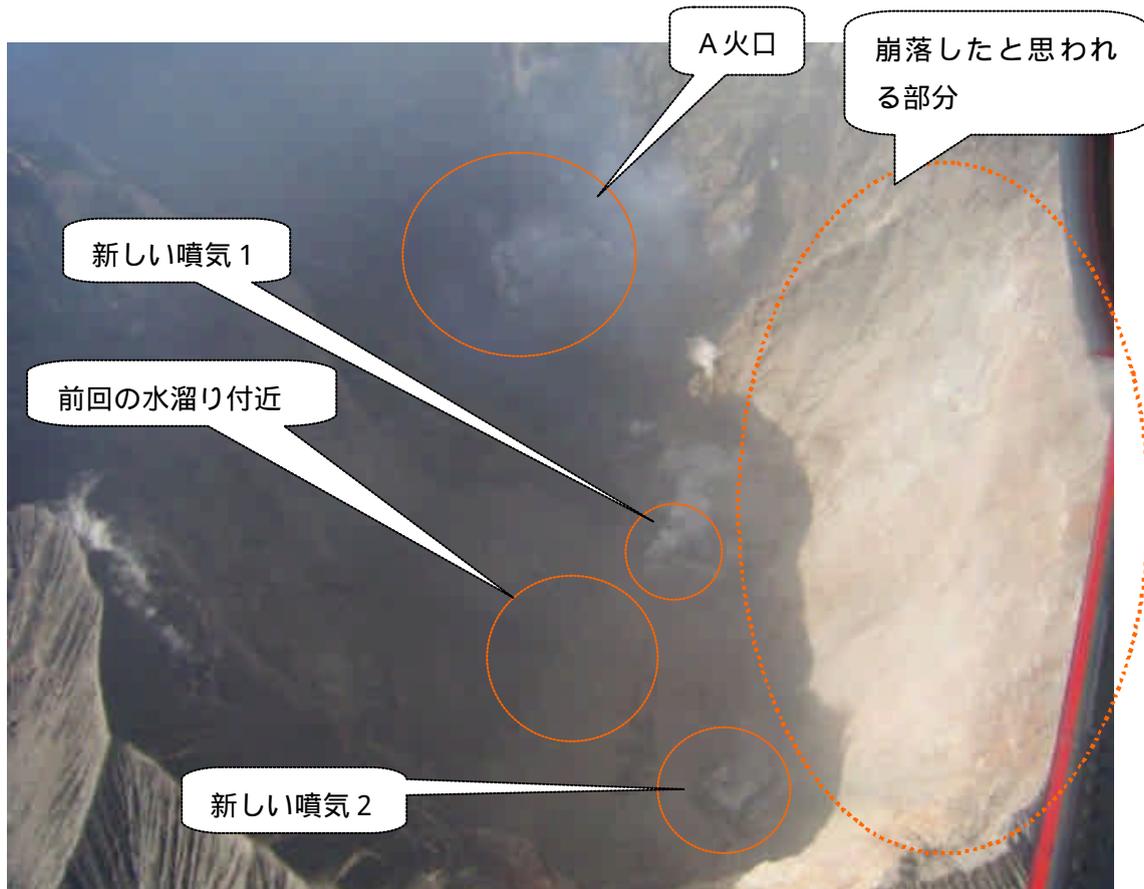


写真2．南岳火口内部（南東側から撮影）

火口内ではA火口とB火口の壁寄り（新しい噴気1）と、崩落した斜面のすぐ下（新しい噴気2）に前回見られなかった噴気が観測された。

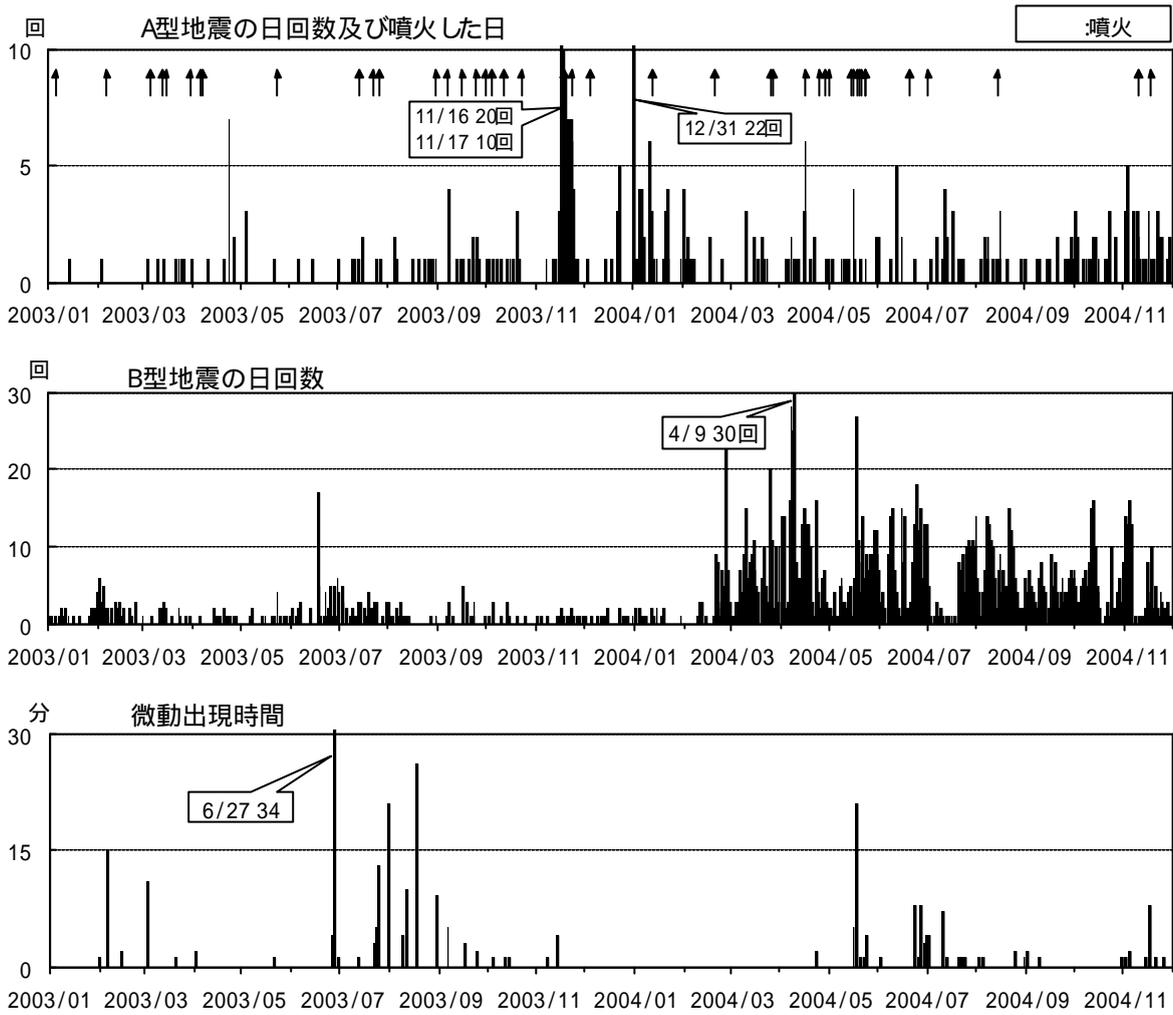


図1 火山活動経過図（2003年1月～2004年11月）

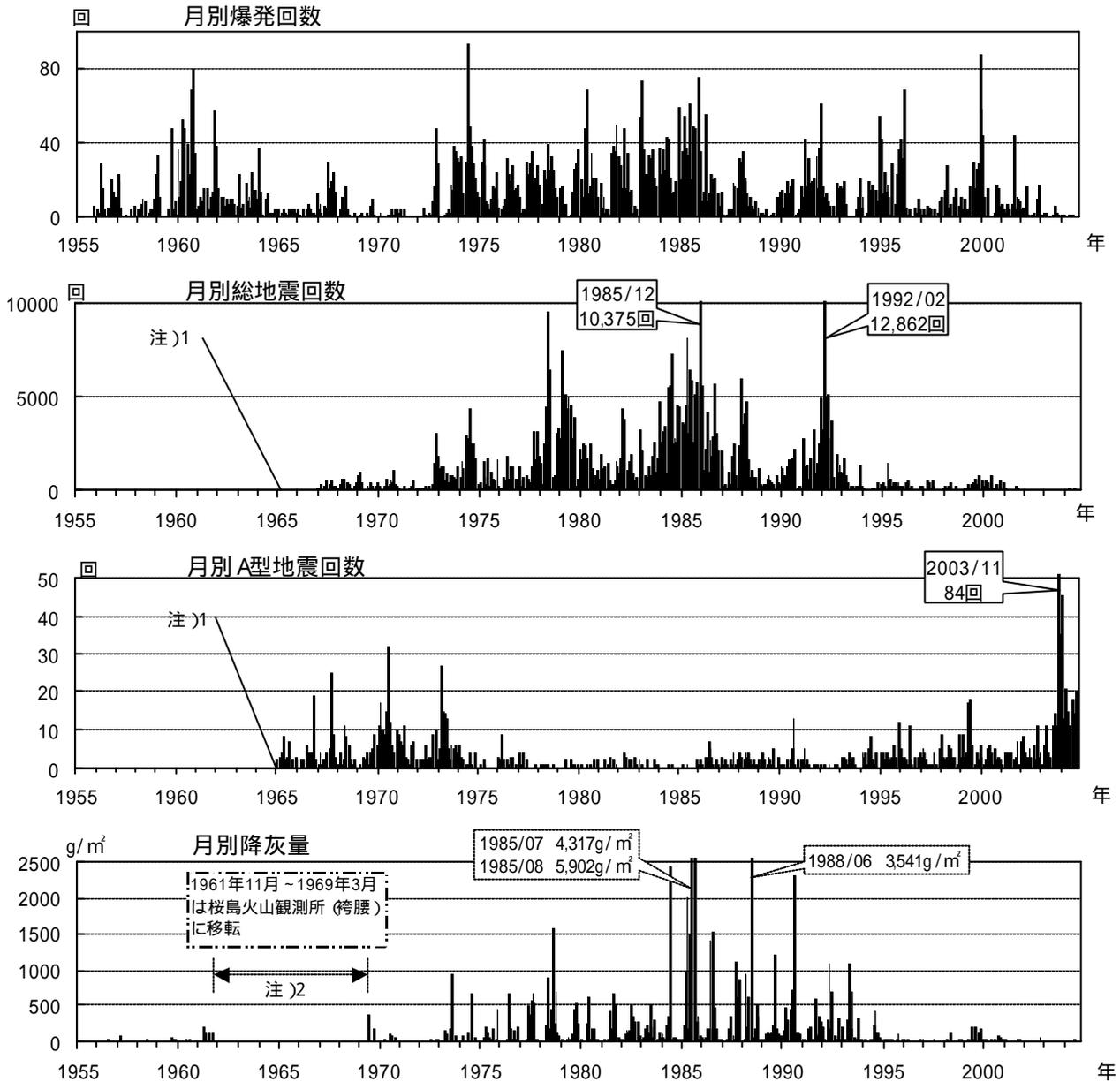


図2 火山活動経過図（1955年1月～2004年11月）

注) 1：震動観測点A点における総地震回数およびA型地震回数は、1965年からのデータをグラフに示した。

注) 2：气象台での降灰量の観測は1994年2月24日までは鹿児島市荒田1丁目、同年2月25日以降は同市東郡元町において行なわれた。なお、1961年11月から1969年3月までは桜島に観測所を移転したため降灰量の統計は中断した。

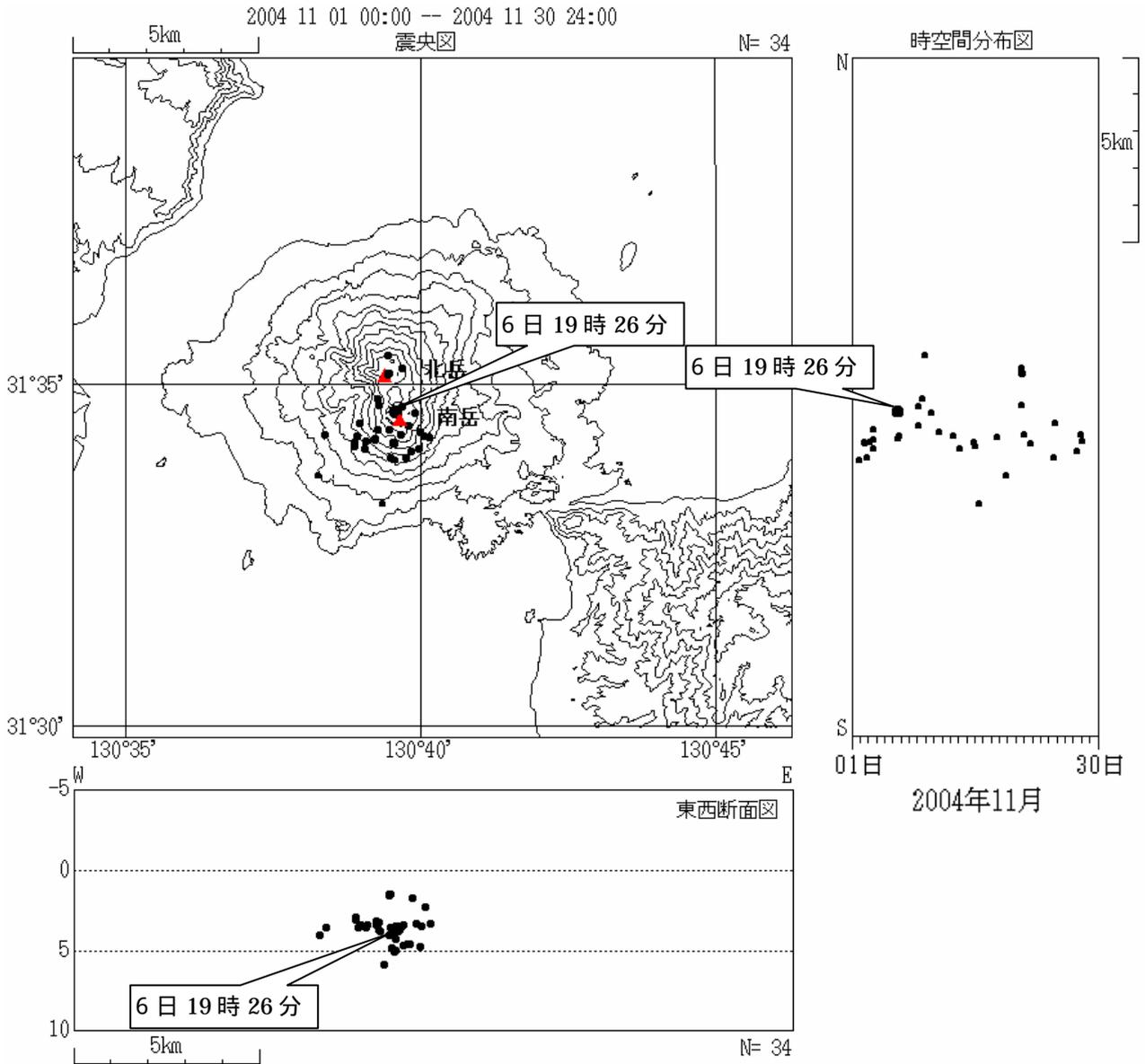


図3 震央分布図（上）と東西断面図（下） 時空間分布図（右）
 （2004年11月1日～11月30日）

本資料は、鹿児島大学、気象庁のデータを用いて作成している。

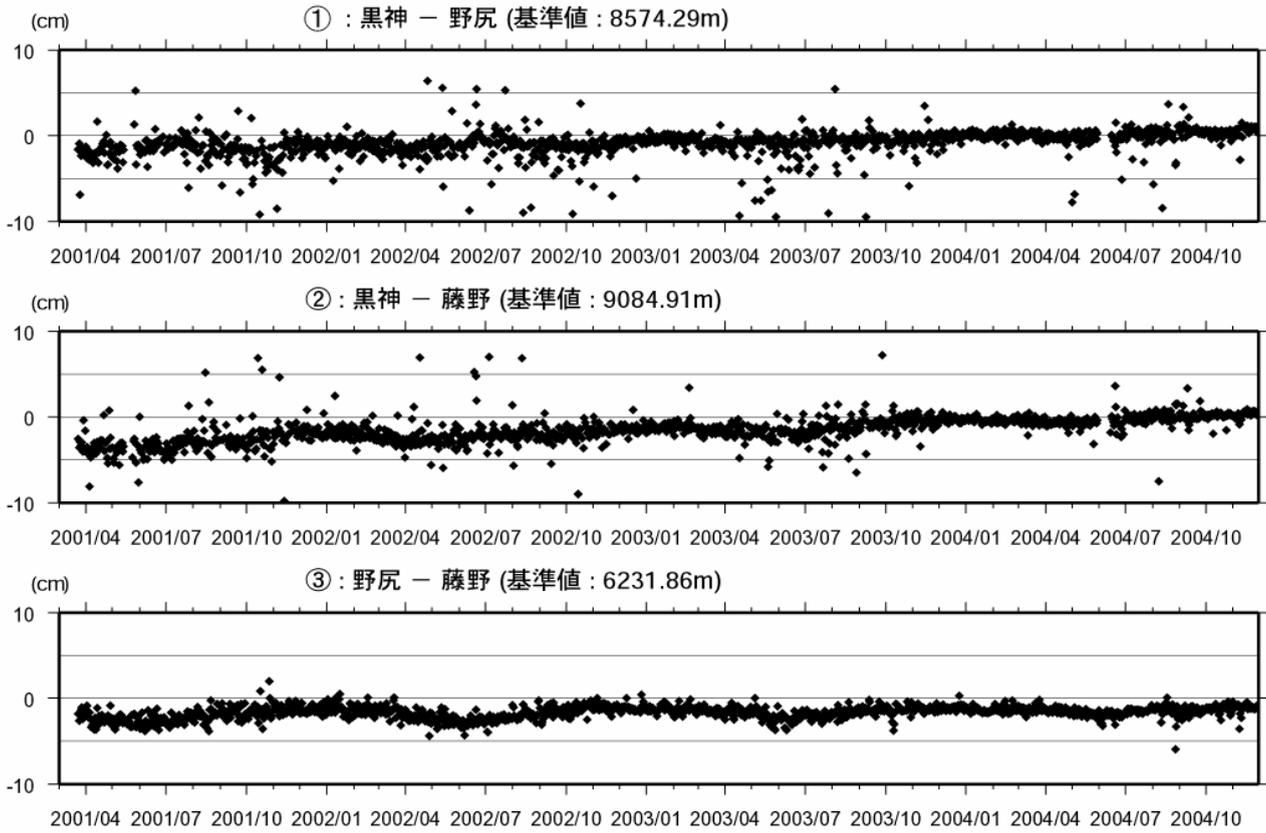


図4 GPSによる基線長変化(2001年3月22日~2004年11月30日)

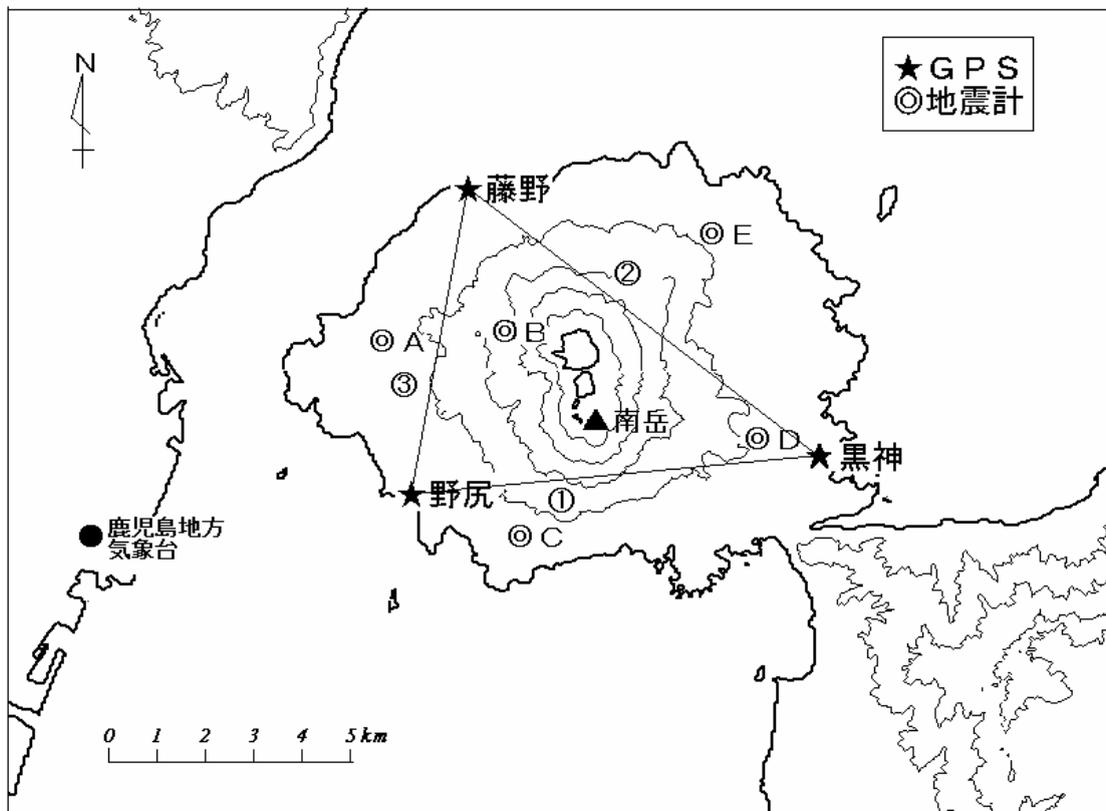


図5 観測点位置図